

## 平成29年度九州北部（日田）豪雨災害中間報告

NPO法人 学びあい理事長 羽野 等

紹介者 九州頸髄損傷者連絡会 神田 憲治



今回の局地的豪雨災害を体験して、雨の降り方が経験したことのない降り方、水量の増え方。行政の避難情報は早めに的確に出ていると感じましたが、土石流発生の中、足が不自由な障がい者、車椅子ユーザは現実的に避難する事は難しいと感じました。

当日夜間の車いすユーザによる避難所利用はなく、夜が明け被災の激しい大鶴地区、小野地区の数名が避難所を利用したと聞いています。

今後の課題として初期避難で重要な事は、できるだけ生活導線が確保されているうちの避難。避難所で収容予定の生活弱者の把握と、対応できる環境設備等々、課題が山積みだと思います。

豪雨による増水の中で避難をする選択肢は無く、増水、土石流によるリスクの低い場所での生活の選択。自身として発病してから6年、50年に一度の豪雨災害を5年前に経験し、今回の体験で思う事は、毎年この状況は来る事を想定した家族、地域、支援者、仲間たちとの協働活動の充実、情報共有、連携の重要性を改めて感じました。

電話による仲間の安否確認情報収集等、出来る

活動は自主的に行い、支援者に伝える事が支援者のリスク回避に繋がる事。被災は現在進行中で、公的な生活支援撤退後、今後の支援体制の構築が大切だと感じ、包括的な官民連携の地域支援が大事だと思います。

大分県日田市（被災地）の支援金受け入れのホームページアドレス

（障害者向けに特定したものではありません）

[http://www.city.hita.oita.jp/kinkyu/saigai\\_info/sienkin/7389.html](http://www.city.hita.oita.jp/kinkyu/saigai_info/sienkin/7389.html)



写真左・神田さん 右・羽野さん